

# 史跡案内(庄・久保地区)

古賀史跡案内ボランティア

平成15年08月01日

## I 庄・久保地区史跡めぐりコース

### 1. 庄地区

サンコスモ(極田杉の木遺跡・周辺の地名) A →印鑰社跡 B →綿津見神社(千人参り 16番・42番・63番) c →橘先生の碑 D

### 2. 久保地区

水害記念碑 E →耕地整理記念碑 F →庚申塔 G →火の見櫓 H →千人参り札所 18番・19番(庚申塔) I →安部一族お堂・矢野氏由来碑(三界萬霊碑)。戦没者慰霊塔、柴田家一族の墓 J →若宮八幡宮 K →矢野松太郎翁碑 L →泉林寺通

## II 庄・久保地区について

### 1. 庄の由来

- ① 荘園が拓かれたところだが、鉄錆(鉄渋)の湧き出るところが多いことから住民にとって利益をもたらしにくい土地として受け止められてきた。地形的に見て台地の周辺が低湿地になっていることから、農耕に四苦八苦したのであろう。渋田姓が多いのもその名残か。

### 2. 久保の由来

- ① 窪地、山間の低地、農業をし易く人に幸いをもたらす地として人々にうけとめられてきた。久保の中でも高い所の農業を営む平地を高田または上げ田というのが通例。

## III 庄地区史跡

### 1. サンコスモ周辺の地名・遺跡 【A】 (別紙)

- ① 奈良・平安・鎌倉時代の古い地名が残っている。

### 2. 印鑰社跡 【B】

- ① 印は官印、鑰は官庁の倉庫の鍵。それを祀った社の跡

### 3. 綿津見神社 【c】 (別紙)

- ① 祭神； 綿津見神・彦火火出見神・豊王姫神
- ② 由緒： 難陀龍王社と言ひ、平安末期の創建と思われる。明治5年綿津見神社となった。
- ③ その他： 夏祭は早苗上(さなぼ)りと称し、子供達の相撲や獅子舞が各戸巡りをしている。

### 4. 観音堂・千人参り札所 【c】

- ① 観音堂： 貝原益軒の『筑前の国続風土記』に「庄村難陀竜王社の境内に観音堂、阿弥陀堂あり」。明治5年に綿津見神社になる時、今の地に移された。
- ② 千人参り札所 16番。42番・63番： いずれも本尊は十一面観音

### 5. 橘先生之碑 【D】

- ① 元綿津見神社の神職橘香木實翁の長男として明治12年に庄区に生まれ、28年間教職につき、香木實翁高齢の為、神職を継いだ。

## Ⅳ 久保地区史跡

### 1. 水害記念碑 【E】

- ① 昭和28年6月4日から降り出した雨は29日まで続く。大根川、谷山川、青柳川が次々と氾濫。鹿部山北部一帯から今在家青柳は湖水化。死者10人、橋梁流失24ヶ所、全壊住居24戸、浸水5000戸。大水害の後、河川を改修した記念碑。昭和35年。

### 2. 耕地整理記念碑 【F】

- ① 筵内・久保・庄に亘る耕地整理。大正7年起工、同14年竣功。面積147町6反歩、工費8万1千6百円。牛馬による耕作困難な耕地もあったが、排水設備を整備した結果、良好となり二毛作となった。

### 3. 庚申塔 【G】

- ① 「庚申壇祭宝暦三年(1753)正月吉日」、日月の彫刻等。昔は塀で囲まれていたので誰も知らなかった。

⇒ 宝暦5年： 長雨と大雨で大凶作。

### 4. 火の見櫓 【H】

- ① 昭和29年堅粕石川鉄工所製造。高さ14メートル。市内唯一の残存、半鐘は使われていないが、若宮八幡宮横に消防分団ができるまでは最近まで警報として利用された。

## 5. 千人参り 札所 ・ 庚申塔 【 I 】

- ① 18番(四国、恩山寺、おんざんじ)：本尊薬師如来
  - ② 19番(立江寺、たっえじ)：本尊地藏菩薩
  - ③ 庚申塔
    - イ) 庚申尊天：天明四年(1784)辰年七月吉日ロ)
    - ロ) 奉仮庚申塔：正徳四年(1714)甲午天九月吉日
    - ハ) 青面金剛：享保十六年(1731)天三月十一日
- ⇒ 享保17年(1732)：大飢饉

## 6. 戦没者慰霊塔他 【 J 】

- ① 安部家一族のお堂
- ② 矢野氏由来碑：団氏の家臣
- ③ 戦没者慰霊塔
- ④ 柴田家一族の墓：慰霊塔左横の林の中にあり。

## 7. 若宮八幡宮 【 K 】 (別紙)

- ① 祭神：仁徳天皇
- ② 由緒：創建不明、南北朝の時代とも。旧地は小高い地形で吹きさらしの所。祭典や宮座を執行する時は風除けに薦を張ってしたので久保の薦張り神事といった。

## 8. 矢野松太郎翁碑 【 L 】

- ① 明治40年頃、村会議員、久保区長、農会評議委員等歴任し、筵内村の発展に寄与した。

## 9. 泉林寺 【 M 】 (別紙)

- ① 宗派・本尊：宗派)浄土真宗西本願寺派。本尊)阿弥陀如来。
- ② 縁起：承応元年(1652)、僧了玄の開基。博多万行寺に属す。黒田長政と加藤清正が千鳥が池で池干をし、雨宿りしたという。